

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	24-324	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Non-invasive tests for alcohol-associated liver disease アルコール関連肝疾患の非侵襲的検査		
執筆者		
Mads Israelsen ^{1,2} , Wiramon Rungratanawanich ³ , Maja Thiele ^{1,2} , Suthat Liangpunsakul ^{4,5,6}		
掲載誌		
Hepatology. 2024 Dec 1;80(6):1390-1407.doi:		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患、非侵襲的検査、アルコール摂取量、肝硬変	38607723	
要 旨		
<p>アルコールの摂取は世界的な現象であり、アルコール関連肝疾患 (ALD) の主要な要因である。ALD リスクのある個人を検出することは困難であり、他の慢性肝疾患と比較して、早期段階で特定される患者はごく一部に留まっている。この課題に対応するため、非侵襲的検査 (NIT) は ALD 検出に不可欠なツールとなり、疾患負担を軽減するための早期発見と介入の機会を提供している。非侵襲的アルコール摂取バイオマーカーは、個人の最近のアルコール摂取量を推定する上で極めて重要であり、飲酒パターンに関する貴重な知見を提供する。無症状の ALD リスク個体の初期スクリーニングや、疾患の特定段階の識別を目的として、様々な NIT が検討されてきた。これらの NIT は主に 2 つの臨床シナリオで適用される：肝関連症状の特定・予測のための集団ベースの層別化、および二次・三次医療現場における代償性肝硬変や進行性慢性肝疾患の診断・予後評価である。さらに NIT は、アルコール関連肝炎 (AH)、非代償性肝硬変、代謝関連性 ALD など、多様な臨床像を示す ALD 患者の予後評価において重要な役割を果たす。これらの検査は適切な治療決定を導き、転帰を予測する。本レビューでは、アルコール摂取の早期発見とモニタリングのための様々な NIT について論じた。さらに、ALD および肝合併症のスクリーニングと予測のための NIT の評価を包括的に取り上げた。ALD スクリーニングにおける NIT に関連する機会と課題について徹底的に議論するとともに、ALD に対する NIT の将来展望を探った。</p>		